



2015-16 年度 R I のテーマ「世界へのプレゼントになろう」

R I 会長 K. R. ラビンドラン (Be a gift to the world)

八戸南ロータリークラブ会報

例会日：毎週木曜日 12:30 例会場：八戸パークホテル

●ガバナー 鈴木 唯司 ● 会長 伊藤 斉 ● 幹事 吉田 立盛 ● コミュニケーション委員長 三浦 晃

ホームページ：http://www.hi-net.ne.jp/~hsrclub/ Email：hsrclub-2830@cd.hi-net.ne.jp

Facebook ページ：https://www.facebook.com/hachinoheminamirc/

f Facebook ページに「いいね!」をお願いします。

RI 第 2830 地区ホームページ：http://www.rotary-aomori.org/2015/

第 1969 回 例会 記録

《規定審議・クラブ細則委員会担当例会》

2016 年 3 月 17 日 (木)

点鐘 12:30

レポート No. 1401



平光 S A A

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- 1) 真実か どうか
- 2) みんなに公平か
- 3) 好意と友情を深めるか
- 4) みんなのためになるか どうか



《ビジター》

橋本 薫 様 (八戸東 RC)

《会長要件》伊藤会長



3 月最初の例会でもお話ししましたが 3 月は「水と衛生」の月間です。ラビンドラン RI 会長からのお知らせをお伝えします。ロータリー会員の皆様へ『3 月は、ロータリー重点分野の一つ「水と衛生」に焦点を置いた月となります。きれいな水が使えることは当たり前のように思われがちですが、世界の多くの地域で依然として深刻なニーズとなっています。今日、きれいな水が得られない環境で生活している人口は、7 億 4,800 万人にも上ります。今年度、会長主催会議の最後の 2 回は「WASH in Schools」(学校の衛生・保険)に関するものとなっています。これらの会議を通じて、教育現場における水と衛生の重要性を強調したいと考えております。また 3 月 22 日の「世界水の日」もロータリーにとって重要な日です。これまでにロータリーは、世界中の地域社会で人びとがより健康な生活を送ることができるよう活動を続けてきました。ロータリー会員によるこれらの重要な奉仕プロジェクトを今後も支えて行けるよう、ご寄付にご協力下さい。』との事です。当 2830 地区では今まさに、「水と衛生」の奉仕活動の為、昨日 16 日に鈴木ガバナーはじめ、長嶺ガバナーエレクトも同行して、タイでの浄水器引き渡しの為に出発いたしました。この活動は 2830 地区でのグローバル補助金事業であり、皆様からのご寄付で成り立っています。改めて皆様のご協力に感謝申し上げます。

さて、本日は規定審議・クラブ細則委員会担当例会です。先週の黒田元 RI 理事のお話にもありましたように、クラブレベルでの委員会は大変珍しいのですが、日頃より近藤委員長はじめ委員会の皆様には色々ご教示いただいております。また、今日も黒田元 RI 理事のお話を拝聴できると言う事で、RI の最新の情報に触れることの出来る恵まれたクラブであると痛感しています。近藤委員長、黒田元 RI 理事、よろしくお願ひ致します。

《出席報告》田守副委員長



正会員数 45 名。本日の出席は免除会員 7 名を含む 25 名、出席率 61%です。前々回の例会はメーキャップ 1 名、出席率 75%でした。

《幹事報告》吉田立盛幹事



・鈴木ガバナーより会員増強について、現在の会員数は 1,168 名です。申請している衛星クラブが承認されると 1,180 名になりミラクル 1,200 迄もう少しです。残りの 4 か月間会員増強にさらなるご協力をお願いします。とのメッセージが届いています。

- ・RYLA セミナーのご案内です。青森公立大学で 6 月 18 日 12 時からです。
- ・米山記念奨学会のオリエンテーションのご案内です。青森国際ホテル 4 月 9 日です。
- ・第 22 回青森県クリーン大作戦の案内が届いています。皆さん参加をお願いします。
- ・ソウル国際大会での日本人朝食会が会場の手配が付かず中止になりました。
- ・ハイライト米山が届いています。
- ・4 月 29 日に予定していた蕪島海岸清掃は当日八高インターアクトの皆さんが出校日の為参加できないので日時を変更します。決まりましたらご案内します。
- ・創立記念例会とボーリング大会の出欠が回っています。

《ニコニコボックス》吉田賢治委員長

伊藤会長：規定審議・クラブ細則委員会担当例会よろしくお願ひ致します。

近藤会員：本日は担当例会ですよろしくお願ひいたします、黒田先生本日はよろしくお願ひ申し



上げます。

米内会員：黒田先生、先週ありがとうございました。

平光会員：近藤委員長よろしくお願ひします。

鈴木会員：ニコニコ

山田会員：ニコニコ

《規定審議・クラブ細則委員会》近藤委員長

RIの規定審議会は3年に一度開催されますが当2016年度はその年にあたっており来る4月10日から15日までシカゴで開催されます。そこで採択された制定案によってRIの定款細則、標準ロータリークラブ定款が改正されますがまだ先の事でありますので、詳細がわかりましたら後日会員の皆様にお知らせしたいと思っています。当クラブの規定審議・クラブ細則委員会の任務は定款細則の審議の他にクラブの理事会及び例会が、より適切に運営されるよう見守っていくという任務があります。1月27日はポール・ハリスの命日でした、2月23日はロータリーの創立記念日でした。標準クラブ定款の第13条第4節にはロータリー創立記念日を含む1週間はロータリーの発祥について、ロータリーの奉仕活動について理解の深まるようプログラムを組むように記載されています。当クラブは今年度長嶺ガバナーを擁立しましたのでそれに関連するプログラムを色々と組まなければならなかったため、ロータリー創立記念日例会はこれまで持つことは出来ませんでした。これはこれでやむを得ないものがあつたと思います。先ほど申し上げましたように規定審議・クラブ細則委員会の任務に鑑みまして今日の例会をロータリー創立記念日例会に充当した方がより適切な例会運営になるのではないかと思います。理事会に提案させていただき承認をいただきました。本日は現在RI運営審査委員会の副委員長を務められております黒田会員にロータリーの誕生からこれまで、そして現況とこれからの方向性と言つたようなロータリーの歴史について講話をお願いしました。黒田会員よろしくお願ひ申し上げます。



《国際ロータリーの最近の大きな変化》黒田会員

(クラブ例会でのロータリー情報提供として)

近藤委員長さんから大変な宿題を預かりましたが、あまりにも大きすぎるので内容を絞ってロータリーの基本的な考え方、出発から現在までの基礎にある考え方を述べて、それが今現在どういうように形に表れて、どういう方向に向かっているかと言つただけを、私の体験を踏まえて単なる抽象的な、理論的な事ではなく、体験的な事を述べさせていただきます。

今から110年前シカゴロータリークラブがポール・ハリスらの提唱によって生まれました。1905年に生まれたのですが、実際シカゴクラブの定款が文章にちゃんとなったのは翌年の1906年です。その時に決まった事は、第1の目的として会員の利益の促進です。はっきり言って会員の儲け、仕事上のプラスが



ないと意味がないと言つた事で、あくまでも会員の仕事、商売をお互いに利用し合つて、会員の利益が増えるよつと言つた事を一番の目的としました。2番目は会員が仕事

で儲けると言つた事にプラスして、例会に出て情報を交換し、交流を深める親睦でした。最初の頃は今のよつな奉仕とか、そういう考え方は全然なく、あくまでも会員の仕事上の利益と親睦だけでした。(この1番目の会員の利益を自覚して、高めよつと言つたのが最近の動きです)これでは会員を勧誘するときにはロータリークラブはあまりにも自己中心的ではないか、このよつな会には入らないと言つた人が出てきたことよつ、自己本位の狭い考え方ではだめだと言つた事でポール・ハリスも考え直して、翌年3番目に「私たちは自分たちの住んでいるシカゴ市の利益になる、シカゴ市にプラスになる事をする」と言つた事を加えました。これが奉仕の出発点です。そして会員が自分自身の事、クラブの事だけでなく、地域社会の事を大切にしていこうと言つた事にしたところ、会員が増えて発展しました。現在ロータリークラブは世界的、グローバルになり世界各地にクラブが出来て、シカゴ市だけではなく全世界に広がっていますが、これが今の大きな出発点との違いです。



ロータリーの理念的なものを最初に作つたアーサー・シェルドンのお墓には「最もよつ奉仕するもの、最も多く報われる」という奉仕の考え方が書いてあります。自分の商売でも、専門職でも、お客さんにベストを尽くしてやるとそれが返つてくる言つた考え方を奉仕に結び付けて言つたのですが、これは今でも標語の一つとして生きています。あと一つの標語は「超我の奉仕」ですけれども、この「最もよつ奉仕するもの、最も多く報われる」にある、報われると言つのは抽象的な事を言っているかと言つるとシェルドンは、お金の事を書いてあります。お金で儲けないと意味がない、あくまでもロータリークラブは会員同士の儲け、自分の仕事にプラスになると言つた事なのです。シェルドンのお墓には奉仕の考え方の図と一緒に「最もよつ奉仕するもの、最も多く報われる」と書いてありますがアメリカではあまりおもてに出しては言いません、言いませんがロータリーの基礎として生きています。シェルドンが書いた図ですが一番下に「奉仕の精神」と有ります。ロータリークラブに来てお互いの親睦を図りながら、シカゴ市の事を考えながら奉仕の精神を養つて、自己責任をもって大きなものに育てよう、奉仕の精神を良く育てるには宇宙の摂理に反しては駄目である、宇宙の摂理と言つた考え方にはキリスト教だけではなくインドの哲学も勉強して、シェルドン自身は経営学の専門家でありビジネスマンですが、100年前にこの図の中に書いた「奉仕の精神」を自己責任をもって大きな木に育てると言つた考え方を持っていました。これが基本として会員の中に生き



ています。日本では特にこの考え方を重視して、佐藤千寿さん、東京東クラブの方でもう亡くなりましたが、大きな町工場から世界的な商品を生み出した方で東京で非常に尊敬されている方です。「職業を通じて社会に奉仕する事が職業奉仕だ」と職業奉仕の定義をこの方は言っています。自分の職業を通して身近な社会に

奉仕する事が職業奉仕だと、また「ロータリーは奉仕団体ではない、間違わないでくれ、例会に出てお互いに親睦を深めて奉仕する気持ちを高めていく、奉仕をしようとする人たちの集団である」と言うように個人が人間的に成長する事が大切だと言っておられ、これが日本のロータリーの考え方の基になっています。もう一人、深川純一さんという弁護士さんですが、素晴らしいロータリーの理念を持っていて日本を代表する方です。現在もお元気であちこちで講演をされています。「ロータリーは倫理運動だ、自分を高めていく倫理運動だ、もちろん仲間同士で親睦を深めていくが単なる仕事上の利益ではなく、社会とか世界に向けて自分を倫理的に、高潔に、人間性を高めていく、ロータリーは職業上の倫理を実践するところであり、理屈で言うだけでなく実践しなければならない、それが職業奉仕であり、これがロータリーだ」という考え方は、日本ではこういう伝統的な考え方が続いています

が、世界では大分変わってきています。職業奉仕という言葉がなくなってきたり、戦略計画という形になっていますが、この戦略計画と言うのは今出たのではなく、ポール・ハリスが1920年代には言っているのです。「ロータリーの奉仕理念、職業奉仕に出てくる奉仕理念は大切でそれは変わらない、変えるべきでもない、しかし現実の社会はどんどん変わってくるので、社会の変化に応じてロータリーの在り方、ロータリーの仕組み、奉仕の仕方などは変えるべきだ、そうしないと市民から相手にされずにロータリーは生き延びていくことは出来ない」とポール・ハリスは予言しております。今盛んに戦略計画を実践しているときです。

次に先週述べた地区リーダーシッププランです。これは戦略計画を実践する前に地区の仕組みをしっかりとするものであり、この地区リーダーシッププランに基づいて推奨クラブリーダーシッププランと言うものがありますが、このクラブリーダーシッププランと言うのは会員数に応じて、4大奉仕や5大奉仕に応じて委員会を作らなくても良いと言う推奨プランです。八戸南はこういう意味ではしっかりと伝統的な事を取り入れながらクラブリーダーシッププランに基づいて、小委員会もしっかりやっているので自分のクラブながら立派だなと思っています。さて、戦略計画委員会ですが、この戦略計画委員会もどんどん考え方を覚えており、ロータリーは過去においては例会出席率を非常に重視して、当クラブでも例会に於いて出席率を発表しメーキャップによる修正も行っ



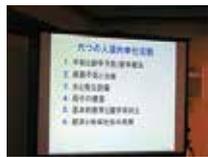
ています。そのように皆さんにメーキャップをお願いしていたのですが、現在のロータリーは、国際ロータリーの話ですが例会に出席するよりは、例えば水の問題とか地域での困っている子どもたちやお年寄りの為の奉仕活動に参加する事を重視する文化に変わるべきだと、今盛んに変わりつつあります。八戸東クラブは非常に熱心に出席を大切に100%出席を続けておりますが、これは素晴らしい事で、貴重でまねの出来ない事です。親睦をお互いに深め合っているからこそできる事だと思います。しかし、世界全体のロータリアンにそれを要求しても無理なのではないか、例会出席よりも人道的なプログラムの参加、或は参加できない人は寄付をしてプログラムの支えになる事などに今は移ってきています。



これは戦略計画の図です、上の方が大きく三つに分かれています。一つはクラブリーダーシッププランでクラブの委員会構成で、地区が地区リーダーシップでクラブを支える。2番目が人道的奉仕で六つに絞っています。クラブごとの会員が少なくなっていて、あれもこれもだとやれないので六つに絞り、しかも人道的奉仕に絞ってやってくださいと重点化しています。3番目は公共的な広報です。ポリオプラスなど良い事を行っていることをどんどん広報して下さいと言う事です。日本は広報が苦手だったのですが、東京や関西の方では今、積極的に広報をやっています。図の下の方ですが職業奉仕とは言わずに奉仕としてまとめてあります。高潔性、これは職業そのものを意味しています。倫理を高めて高潔性を持つ、その他に親睦、多様性、このように職業奉仕という言葉は使わないが同じことをやっていると言う事です。

六つの人道的奉仕活動ですが「平和と紛争予防 / 紛争解決」では平和フェローという奨学生を育てています。そういう方達を世界のボランティアとして送り出しています。「疾病予防と治療」は解りやすく言うとポリオの事です。「水と衛生設備」ですが、長嶺さんは財団の委員長でしたから、今タイへ行って、水の衛生設備改善とか井戸づくりを指導しています。「母子の健康」では発展途上国の妊婦、赤ちゃんの死亡率が高いのでその対策、「基本的教育と識字率向上」ではパキスタンなどの子供の教育、文字を読めるようにしたい。「経済と地域社会の発展」では地域の経済発展の為に投資すると言うように、国際ロータリーでは奉仕を絞って、皆さんが国際的なグローバル補助金でやるだけでなく、地域でやる場合もこれに絞って下さいと言っています。ですから職業奉仕そのもののプログラム、よろず相談をやってもRI会長賞では評価されないと言うのが現状です。

この写真はタイの国際大会の時のものです。私が理事の時に職業奉仕を無くすると言われ慌てて職業





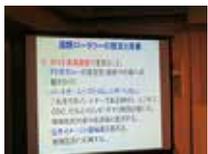
奉仕が無くなるのは困ると言ってどうにか残してもらったのですが、「それでは黒田、職業奉仕委員長をやれ」と言われてタイの国際大会で友愛の広場にブースを設け PR をしました。他の委員にも協力をお願いしたのですが皆さん色々忙しく、「ここは黒田夫妻でやってくれ」と言う事で大変な思いをしました。RI では職業奉仕委員会はいらないのではないかとわれながら残してもらい、その時の委員会で決めたことは、企業の社会的責任と言うものをもう一度深く広く見直すと言う事で「・専門能力の開発を奨励し、指導する (VTT など) ・奉仕プロジェクトで職業スキルに生かす ・職業に関連する親睦活動グループに参加する ・企業の社会的責任に継続的に取り組む。」と言うような事を RI 発行の「職業奉仕入門」に載せてもらいました。私が理事を辞めた 2012 年の事です。最近あちこちで職業奉仕を講演するパストガバナーはこれを「企業の社会的責任」と言う事でお話なさっているようです。このようにロータリーの出発点である自分たちの利益、親睦、シカゴ市内の社会的問題に対しては会員各自がそれぞれの仕事に責任を持つという原点に戻したと言う事です。



これは今年の正月に伊藤忠が読売新聞に載せたものです。昔から言われている近江商人の「三方よし」ですが、日本では今も大企業が受け継いでいると言う事で、ロータリーが出来た時の「世間よし」と同じだと思ひ紹介しました。

さて現在のロータリーの事です。これは近藤さんが一番知りたかった事だと思ひます。ロータリーは会員や学友の定義を変えました。学友は元は財団の奨学生だったのですが今はロータリーアクターやロータリーのプログラムに参加したインターアクターを含めて学友としました。RYLA に参加した人も学友です。会員も退職した方とか職業に従事していない方、ボランティアに関心のある方、地域のリーダーでそういう事のしたい方、或はクラブも電子クラブである E クラブも認める時代になりました。職業奉仕も原則があり一人に一つだったのが今は五つまで認められ段々と緩められています。先ほど言った戦略計画も重要視されてその中から職業奉仕そのものがなくなり、財団のプログラムの人道的なものが統合されて、しかも効率を重視する、どれだけ寄付をして、どこで何をやったかが重要視されるロータリーになってきています。

次に人道的な奉仕です。これも何回か言いましたがロータリーの活動の在り方がどんどん変わってきている、これが現状です。ポリオ撲滅はロータリーが 30 年間ずっと続けてきました。私も昨年一年間 RI のポリオの委員として大変な思いをしました。本部から沢山の資料が届きますが全て英語です、それを読み、あちこちに電話をしてお願いをすると言う大変な一年でした。この 30 年の中で変わってきたことは、ロータリアンの方だけではポリオの撲滅



が出来ないと言う事がわかってきたことです。ポリオ撲滅は 30 年経ってもう目前に迫っています、アフリカも終結宣言が出て、後はパキスタンとアフガニスタンの 2 カ国ですが、そこにはテロがありとても危険なところ。テロの問題はパキスタンやアフガニスタンの政府に働きかけてそのプライドをお願いするしかない、政府に働きかける事をアドボカシーと言いますが、これが非常に重要になってきました。パキスタンやアフガニスタン以外の政府には寄付をお願いする。ロータリアンはずっとやってきたのですが、それだけでは及ばなかったのでパートナーシップでユニセフやビル・ゲイツ財団などの大きな組織と一緒にやる、集結した後の管理は WHO やユニセフをお願いする。そして公共イメージの認知度を高める。政府に働きかけて協力を得ると言う事は税金を使う事になるので、国民の皆さんに広く働きかけて理解してもらう為にも、公共イメージを高めると言う事なのです。



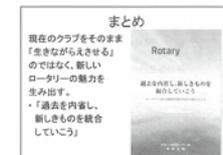
この写真は昨年国際大会へ行く前の 5 月に首相官邸を訪れ、RI の委員として政府にお願いに行った時の物です。私の一番苦手な分野ですが RI 会長と財団の管理委員長の名前の入った御礼の楯を渡してお願いしてきました。

財団と未来の夢計画ですが、先ほど言ったように統合して、奉仕活動は人道的奉仕活動に絞り、クラブは自分たちのクラブの人数に応じて委員会の数を少なくしても良いと言う現在の在り方などですが、時間がないので詳しくお話することは出来ません。

財団への寄付についてですが、皆さんからいただいた寄付は「公益財団法人ロータリー日本財団」で受取ります。それを内閣府にポリオや世界の平和の為に使うので免税処理をして欲しいとお願いします。政府としては国内で何かやるのでなければ免税できないと言われるので、国内では日本でのグローバル補助金の資金と国際基督教大学にある平和センターの資金に使っていると言う事を説明し、免税処理をしてもらっています。皆様から頂いた寄付は理事長の千 玄室さんと私を含めた 3 人の副理事長が責任を持って無駄遣いをせず、奨学生と最小限の事務的なものだけに使い、全額本部に送っておりますので財団への協力をお願い致します。

これは 3 月の初めに RI 運営審査委員会へ行った時の写真です。この委員会ではロータリーの色々な問題点、RI 会長から諮問されたことを理事会に提案するという事をやっています。RI のグローバルな考え方がよくわかります。

まとめとして、今までのロータリーの職業奉仕の考え方、世界のロータリーの理念の出発点、この過去を大切にしていながらもロータリーの在り方は変わってきているので、新しいものを組み入れて、両方をどういうふうに向いて決してあきらめないで進んでいきたいと言う事です。



まとめとして、今までのロータリーの職業奉仕の考え方、世界のロータリーの理念の出発点、この過去を大切にしていながらもロータリーの在り方は変わってきているので、新しいものを組み入れて、両方をどういうふうに向いて決してあきらめないで進んでいきたいと言う事です。

